

FROM EDITORS

編集室から

年末句集歌集

魂の飛びゆく先は流星群

牽牛

オオタカの青空暮れて藍になり

銀の線ひく流星雨

み

ふる里の山の辺厳る冬いちご

小さく赤き草の根こころ

太郎ぼっち

筋肉痛 一日おいてやってくる

ハッと気付くと白髪ちらほら

こまどり

枯葉落ち やがて緑が蘇る

小船

オオタカよ巣立ちを願うわが子かな

郷の秋

大好きな人がいっぱいできた

飯能が好きだ チャランケ

寒空に悲しくつらく笑って飛ぶか

かれすすき

草紅葉休耕田に鎌置けば

群青の空白き鷹飛ぶ

敏月

ひがしやつ むかごめしに豚汁そえて

皆を待ち 秋桜女



六者会談が開かれました。

十一月十九日、県庁にて、(株)西武鉄道、埼玉県、飯能市、埼玉県生態系保護協会、埼玉環境保護団体協議会、天覧山・多峯主山を守る会、の六者による会談が開かれました。

今回は西武鉄道により実施されていた「武蔵丘オオタカ生息状況調査」の結果報告書が提出され、それを中心に解析や今後の対応が話し合われました。今回出された調査結果を元に、環境庁のガイドラインに基づいたオオタカ保護対策の具体案が、今後の最重要課題であることが確認されました。守る会からも、独自に行ってきた調査結果を一部提出しました。現在、次回の会談に向けて、保護対策の提言も含めた調査報告書作りをしているところですが、また同日、県自然保護課を訪れて、現在策定中の県民休養地計画の進捗具合についてお聞きしました。中味は◎今年度中に基本計画の骨子が出来上がる予定です。

◎今年度のものが最終案ではなく、来年度以降も引き続き検討してゆく態勢である。とのことでした。成

会員募集中!

現在、天覧山・多峯主山の北東地域には、西武鉄道による巨大団地計画があります。「天覧山・多峯主山の自然を守る会」は、計画の発表以後、署名運動や、県や市に対する働きかけ、自然観察会、会報「やませみ」の発行などを通してこの地域の自然を残すことを訴えてきました。この団地計画に対する県の許可は、まだ下りていません。緑豊かなふるさとを守るのは、私たちひとりひとりの市民です。まだ間に合います、どうぞあなたも参加して下さい。

会費や手続きなど、詳しいことは事務局までお問い合わせ下さい。また「やませみ」やお知らせなどは、谷口眼科・銀河堂・Café裏にも置いてあります。

日よう日る里散歩のお知らせ

◎三月一四日(日)

「はるよいこ」の巻

ひがしやつトラスト地での軽作業

◎三月一四日(日)

「豊かな里山・みんなの山」の巻

サンショウウオの卵は元気かな?

◆集合 能仁寺山門前午前九時半

◆参加費 保険料(任意)百円

◆持ち物 お弁当・山歩き用の服装

天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報



やませみ



No.19

きのうと今日の間にひとは
新年をお迎えし
山を見ればきのうとひとつも変わらずに
また明日もここにあり

区切の気づくかひとさらば
ふと深く季節をはぐくみ
区切りもせむに四季を生みだす山よ
その大きなリズムに抱かれたく

わたしたちは声をあげ今年もまた足を運び

うれしい区切りをひとりとつ

またひとつ...

うさぎのように軽やかに

祈りをこめて新年第一号をおくりまわす。



やませみ

NUMBER・19

発行日 / 1999年1月1日 編集・発行 / 天覧山・多峯主山の自然を守る会
事務局 / 浅野正敏 埼玉県飯能市柳町18-17 ☎0429-74-1691 小船島 ☎0429-72-4602
編集局 / 早瀬あかね ☎0429-77-1890 (FAX兼) イラスト・レイアウト / 石岡泉由海
郵便振替口座 / 名称「天覧山・多峯主山の自然を守る会」 番号00580-9-16342

1998年活動記録

- 1月1日◇会報「やませみ15号」発行
 2月1日◇「ガイアシンフォニー第三番」上映
 ◇守る会によるオオタカ定点観察調査開始（以降毎月一回調査実施）
 3月 ◇オオタカの営巣の徴候が見られた。
 4月1日◇会報「やませみ16号」発行
 26日◇総会と講演会「高尾山の自然をまもる市民運動の話を聞く会」
 5月4日◇里山まつり「Tシャツアート展・ワークショップ・ネイチャーコンサート」天覧入りで開催
 24日◇ミュージカル「LOVE憲法「ムツゴロウのラブソディー」飯能公演に協力
 6月11日◇埼玉県自然保護課にて「飯能県民休養地構想」の調査報告の内容について懇談
 25日◇会報「やませみ17号」発行
 7月20日◇高尾山3000人集会へ参加
 8月2日◇茨城県猿島野市民活動に現地視察
 24日◇第4回さいたま環境フォーラム参加及び現状報告
 27日◇埼玉県自然保護課・環境推進課にて懇談
 9月 ◇市議会にて、多峯主山南斜面に計画されている学校について、見直しの言及があった。
 ◇天覧山の一角、東谷（ひがしやつ）に借地トラスト地誕生
 10月14日◇会報「やませみ18号」発行
 31日◇「水源の神を語る会」の方々との交流会
 11月19日◇オオタカに関する関係者会議（六者会談）開催
 ◇埼玉県自然保護課にて「飯能県民休養地構想」の進捗状況について懇談
 12月13日◇山歩きのと、クリスマスリース作りワークショップ開催

この他、毎月第二日曜日には「ふる里散歩」を実施しています。また随時、会報「やませみ」を発行し、街頭および市役所、県庁前での配布、市内各所でのポスティングを行っています。定例会は第二日曜日の午後2時半より市民会館（変更あり）で、第4金曜日の午後7時半より織物協同組合会館でひらかれています。どなたでも参加大歓迎です。

1998年五大ニュース

- ①多峯主山南斜面に計画されている学校について見直し検討がなされた。
- ②オオタカは、営巣の徴候はあったものの繁殖は失敗に終わった。
- ③天覧山裏山の一角に借り入れトラスト地誕生
- ④飯能県民休養地のための、県の調査が完了し基本構想をまとめる段階に入った。
- ⑤里山まつりのイベントが開催された。



一九九九年。二〇世紀もいよいよウントダウンに入りました。振り返ればこの二〇世紀、人類は大量生産・大量消費を美德とし、急激な速度で発展を遂げてきました。その結果、公害や災害があいつぎ、私達の追い求めたものはこんな事だったのか、経済優先の考え（物の豊かさ、贅沢さを享受する事）のみに心を奪われ、大切なものを忘れてきてしまったのではないかと考えさせられます。

この飯能の地も、周辺を見渡せばゴルフ場や団地開発によって、身近な里山の自然はほぼ失われてきています。昨今、住都公団の郊外団地開発からの撤退や、行政における開発内容の見直し検討など、やみくもな開発に対する抑制がかかってきています。

深刻な不況の中にあつて、かつてのバブル景気を夢みてもっと開発をとの声が聞こえてきそうですが、長く暗いトンネルを抜け出るためには『開発＝発展』という考えを変える時期に来たのではないのでしょうか。

近年、国際会議で提唱されているサステイナブル・ソサエティ（持続可能な社会）が人類のビジョンであるとする

るならば、今までの社会通念を交換しなければなりません。

五年前、イギリスのナショナル・トラスト・ボランティアワークに参加した時に感じた事ですが、一緒に働いていた英国の人達は経済的に決して豊かとはいえない雰囲気ではありましたが、時間というものをとても贅沢に過ごしていた事に、あくせく生きていた私は大変驚きました。

緑豊かな森と一七世紀の建物を大切に使いながら日常の生活をゆったりと過ごす英国の人々……そうした心の豊かさを求めるとするならば、私達日本人にとって郷土の文化と四季折々に安らぎを与えてくれる身近な自然環境は、宝物であり大切にしなければならぬものだ、と気がつきます。

この飯能において幸運にも「天覧山・多峯主山周辺」の里山景観は、開発の危機にさらされながらも現在まで残っています。昨年より再開された「飯能県民休養地構想」をきっかけに、多くの市民の自主的な行動によって、この地が心の豊かさの象徴として二一世紀に誇れる地域となる事を願っています。

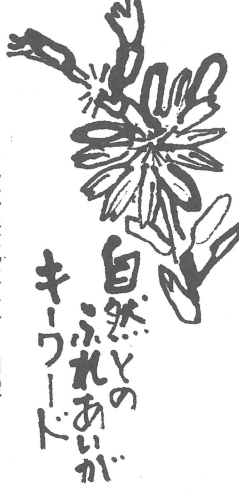
天覧山・多峯主山を守る会代表
浅野正敏



この報告書の目的

「調査目的……「飯能県民休養地」においては、昭和57年度～61年度にかけて一部の整備が着手されたものの諸般の事情により休止され、本年度改めて計画が再開されることになった。こうしたことから本調査は、整備対象地域の環境特性に応じた県民休養地としての望ましい保全と利用のあり方を検討するための基礎資料の収集・整理を目的に、自然環境調査を実施する・p1」

右の目的で平成十年三月埼玉県自然保護課によってまとめられたこの報告書は、現在埼玉県と飯能市が作っている天覧山・多峰主山周辺の、自然公園計画基本構想の基礎資料となるものである。私達市民の里山にできる自然公園のあるべき姿を、この報告書の中より探ってみよう。



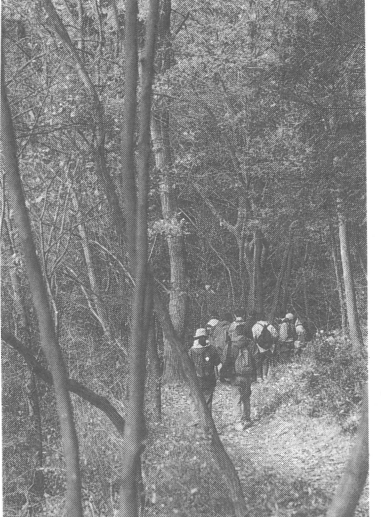
2 県民休養地事業の内容

本県では、近年の都市化の進展に伴い、身近な自然とふれあう機会を求める県民の声の高まりに対処するため、県立自然公園のすぐれた自然環境を活かし、野生生物とのふれあいを中心とした野外レクリエーション施設を整備し、県立自然公園の利用拠点とする「県民休養地事業」が、昭和57年より進められている……・p161」

「……平成五年にはわが国の環境政策の体系を示す「環境基本法」が成立し、「環境の自然的構成要素の良好な状態での保持」や「多様な自然環境の体系的保全」と共に、「人と自然との豊かなふれあいの確保」が基本的な指針の一つとして位置づけられ、その実現の場として改めて自然公園の担うべき役割が重視されるにいたっている……・p159」と、この「事業目的」に明記されているように、従来の箱物事業に欠落しがちであった、自然環境の体系的保全によって、市民ができるだけありのままの自然とふれあえる場——公園、作りこそ県民休養地なのである。



今回の調査によって、当地域で保全され、自然公園を形づくるべき体系的自然環境のイメージが改めて確認された。そのイメージを報告書では「また、丘陵地としての地形的な特性から起伏の緩やかな尾根と谷地によって基本的な自然環境が構成されており、谷地には湧水を水源とした湿地が発達していること、集落に近いことから農林業用地として古くから人の手が加えられてきた二次的自然が主となっていること、さらにこれらの要素が加味され生物多様性に富んだ保全上重要な地域になっていること等があげられる。・p137」この尾根と谷地こそ、飯能市民によって愛され、守られてきた山々であり沢である。この尾根と谷地を自然公園としていかに保全し育ててゆくかが、県民休養地のテーマである。



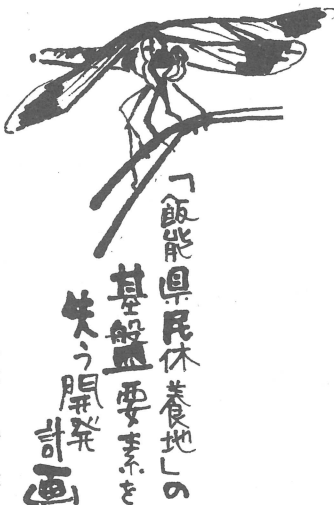
「日よう日ふる里散歩」で人気の多峰主山を歩く

天覧山 多峰主山の自然公園計画

飯能県民休養地自然環境調査報告書より



天覧山下の休耕田で自然観察する参加者



現在、進められている住宅団地と学校および道路開発計画地域について、《……現況は両地域とも森林が広がり部分的に谷地の湿地帯が延びる自然環境として一体的なまとまりを持った場所の中にあるが、これらの開発が進んだ場合、開発箇所においては人工的な環境へと変化が進むものと予測される。p164》と報告書は指摘し、《……「飯能県民休養地」の環境特性として丘陵地に入り込んだ4つの沢を中心とした多様な水生動物相と湿地生態系に大きな特徴があるが、いずれの沢（谷地）についても直接・間接に影響が及ぶ開発計画が存在することが明らかとなった。こうした事実は、「飯能県民休養地」のすぐれた自然的資質を支える基盤的要素を失うに等しい重要課題と言えるだけに、個々の開発計画の詳細内容を把握したうえで、希少動植物対策と水源・水域対策の両面からの十分な影響回避のための検討が望まれる。p165～166》当地のすぐれた自然資質こそ、県民休養地の母体であり、その保全がこの計画の、そもその目的であることが強く望まれているのである。



《今回、「飯能県民休養地」内を対象とした初めての自然環境調査が実施されたがその結果を総括すると、本県において保全すべき良好な自然環境としての評価が既に定まり、県や市による保全・活用のための様々な施策が実施されている「狭山丘陵」や「加治丘陵」と比較しても、当該地域の自然環境の良質度は全く遜色が無いことが改めて明らかとなった。むしろ動植物相の内容を見ると、各項の分析の中で記されているように、調査地内は標高の割には低山性の種の分布が数多く確認されたり、他所では既に絶滅している種が依存的に分布している等の事実が明らかになり、多数の希少動植物の存在も含めて生物多様性が極めて高い貴重な地域として特徴づけられると言えよう。今回の調査ではわずか70ha程の地域の中で、746種の植物と510種の動物（哺乳類21種、鳥類135種、爬虫類9種、両生類11種、水生動物類9種、昆虫類325種）の生育・生息が確認され、市街地近郊の里山地域としては優れた野生動植物の観察フィールドと言って間違いのない・p169》

この調査報告書により、私たちは改めて、当地の良質で多様性に富んだ自然環境を確認できた。この県下屈指の自然資源をいかに大切に保全し、活用して行くかが、県民休養地の基本テーマであることも確認された。私たち市民がくり返し願ひ訴えてきたことは、間違っていないからである。



《天覧山や多峰主山は飯能市民にとって地域のシンボルの存在であることから、20年以上も前からこれらの地域の自然環境を守る市民運動が様々な展開されてきた歴史がある。前記したように、当該地域の自然環境そのものを対象とした自然とのふれあい活動は……市民団体を中心に積極的に続けられている。また、特定の団体に所属してだけでなくとも、市街地に隣接する当該地域の豊かな自然環境に興味や関心を持っている地域住民は少なくないことが想定される。・p173》

《……住民参加型の管理運営を検討するうえで、これだけの適した条件を備えた場所は少ないと考えられ、今後一般市民を始めとして、地域の各種団体や学校等も含めた幅広い住民参加を目標とした「管理・運営方策」のあり方についての検討が望まれる。・p173》

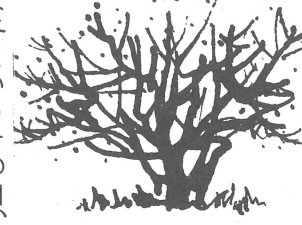
以上のように、報告書では住民参加型の管理・運営こそ当自然公園では可能性もあり、多くの市民が求めるものであるとして、この計画の核のひとつとしている。市民が作り上げてゆく自然公園こそ重要なもの、と明記しているのである。

この公園が、新しい里山、自然との共生の場となる市民型自然公園——県民休養地となってゆくためには、私たち市民の多様で積極的な参加が再び求められているのであろう。早

注☆文中の☆の中は、報告書からの引用文☆p以下の数字は引用ページ☆……は省略を示す



また逢える日まで、お元気で

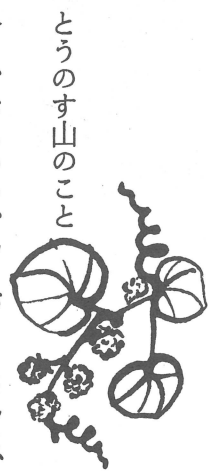


今日から暦の上では冬というその日、僕は二人の息子と一緒に初めて天覧山に登った。五人の子供達がいるが、二人共、山の名前がついているのは偶然であった。「今、チッチチッ」と鳴いているのは、うぐいすの笛鳴きです。これは野竹といってカレイの匂いがしますよ」などと楽しいガイド付き。また、炒ったシイの実の味に懐かしい郷愁があった。この喜び・楽しさを、目耳などに個性を持った人達と分かち合えたらいいなと思った。

最後に、すてきなひと時を与えていただきました山の仲間たちへの感謝を天覧山の自然を守りたいという気持ちで僕の作った歌「飯能の里」の一節を書いて、静かに点筆を置かせていただきます。

「天覧山に夕日が沈む。また逢える日までお元気で。また逢える日まで、お元気で」 真野博行

（真野さんは視力障害のある方です。この原稿は点字で書かれたものです）



今日、おにちゃんとおとうさんと、とうのす山におさんぽにいきました。とうのす山には、木がいっぱいはえていました。だけど、すこしあるいていくと木がなくなつて、たくさんのおうちをつくつているところにできました。そこで、おとうさんとよそのおじさんがはなしをしているのをききました。ほかの人がすむために、とうのす山がどんどんくずされていくそうです。ぼくは、かなしくなつてきました。ぼくは、赤ちゃんのときからとうのす山にあそびにいっていました。そして、ふゆいちごをとったりもみじいちごをとったりしてきました。それを、おうちにもつてかえって、ジュースにすると、とってもあまくておいしかったです。おうちがたつてしまうと、もうとれなくなるかもしれません。山は生きているのに、おとなは、どうしてそんなひどいことをするんだらうとおもいました。とうのす山は、そのままにしてほしいです。1年生 むらかみ ひとみ



第一回 奥むさし環境講座「奥むさしの魅力ある自然」自然の使い捨てをつづけますか？それとも豊かな自然環境を残しますか？

◎日時 一月十五日（金）一時～五時
◎場所 富士見公民館一階ホール
県の環境アドバイザー・飯能市環境審議委員で、駿河台大学教授の内田康夫さんを講師にお迎えし、私たちに身近な自然、里山の魅力について語っていただきます。入場無料！どなたでも受講できます。是非ご参加下さい。